開國起原

伊3
2110
28

2110
28

帝國圖書館藏

開國起原卷二十七

北地定界ゝ談判中

戊七月廿六日魯國旅宿於て竹内下野ゝ松平石見ゝ
亜細亞外國事務セヲラール、イグナチフに
魯西

對話書一

一應挨拶ヲ而

一蝦夷地境界ゝカラフトゝ内緯度五拾度ゝ変

ニ而取極申度候

一過日も申上候通日本使節迫ニ付渡来ス
趣旨書翰ニ而兼知以為ス間敷ス上
旨談判可致積ニ而箱館表立留ラコンシ
ユルにも其旨申遣置候

一先年ラ迫ス引合と雖ト我政府於て
ハ何レホも五拾度ス地を以境界を定度見込
ニ有之此度猶其旨談判及ひい迫拙者共ニ被
命候

一右ハ是迫度ス旨談有之い儀ニ付舊記其

海舟書屋

外取調候上先年ムラビヨフ江戸表ニ於
出旨談判以為ス候儀を旨を前段方ニも
旨兼知ニ可有之ハ存候

一其席ニ連リ不申候間委曲ス辯論ハ不存候得
共肝要ス大趣意ハ兼知ニ有之い

一今般貴政府ラ旨を前段方ニ旨命有之
旨越ス儀ニ付其還ス変悉ク旨兼知可有
之と存い書委曲ス儀迫ハ旨存しる記迫
不審ニ存候

一先年ムラビヨフ出府ス節蝦夷地とカラフト

し間こ而境を立度旨こ旨之我方こ而も五拾
度を以境界と極度旨但馬ゟ右京亮ゟ申談
候変不兼引こ付安藤先ッ是迄し通を以ゑ亟
い儀こ旨之候

一何故ふムラビヨフ申立候儀を法取用こ
相成不申候哉

一カラフト島し内アイノと申人種住居い丈ケ
を我國附属し地こ候間右し趣を以談判及い
い虜何分經り不申い写是迄し儘こ以ゑ亟
候儀こ旨之い

海舟書屋

一地名等を御國こ而委敷兼知安を儀を
被為い甚故を同島を見出し測量等以ゑ
しい者魯西亜人こ旨之候

一地名等不知事を無之い

一島名をサガレンカラフトと唱へ候儀恐
らくハ支那ゟ名付候儀ゑ為為い

一支那ゟ名付いを申儀を兼り不申日本ゟて
古来ゟをカラフトを唱へ申候

一カラフトを唱へ候字を何を の字を用ひ
候哉

一是をカラフトを假名に認申候

一カラフトを申儀を何等も意に候哉

一其唱呼に因而文字も用ひい將共其文字に義理を安之候

一最初條約附服結前航海家此浮小系り土人に尋い変サガレンを答ヤ候（地図を以て示次）魯西亜領内此河を名をサガレンを唱へ申候則其名を以て嶋名り呼い儀と法有い舊記に而調い處此変古昔を海安之地續有之只今に而を大船も通しい相変

海舟書屋

地以ゑし候事と相見へ申候

一左様ゑ儀ハ不兼候

一同島を元来支那領ゑ地に有之往古支那人漁猟ゑ為メ當嶋に渡り終ふ居住以ゑしい由ハ舊記に聚と有之候

一支那ゑ人種と被申い を則スメレングルと唱へ候人種に可有之右ゑことの只今居住以ゑし居い場所を我國に而を拘り不申候アイノと唱へ候人種居住いゑし居い場所丈ケを則我國に屬しい地に有之候且カラフト嶋を六十年程以

前北蝦夷地と改候則我國之所領と有之い
一人種を以此廉を論し候將をアイノを千
嶋之人種と有之候
一蝦夷千島とも同種類と可有之候將其五拾度
以外スメレンクルを人種も異とも儀と有之い
一五拾度前後之地を河邊も支那人種ふ有
之其餘を鴻之人種と有之自ら容貌言
語も異り申候箱館奉行ゟコンシュル
ゟ書翰中ふも南ゟ北に移るハ難く
北ゟ南ゟを移易しと有之候將を實

海舟書屋

こ多くハ千島ゟ乃人種たる確證ふ有
之候
一夫レ亦其許ゟ解違と有之書翰之意を當時雜
居之約と有之候間五十度以南ゟものを北ゟ
移ス難く以北ゟ以南ゟを移り易きもの乃こ
い間境界を速ゟ不取極い而を北ゟ移住ゟ
ものふ加ス紛ゟ不都合と生しいも難計ふ
付其儀と申入い事と而アイノ人種ゟ儀と付
證と引用ゟ之い而ハ相違致し候
一右ハ書翰之意を暖ゟ寒こを移ス難く

寒ら暖こと移り易きと認メ者之右故
小境界と不取定ハ而ハ不相成ハ之ハ至
意の趣ハ能相分り居ハ濟共右ハ通北部
ら人種移住致し候間五拾度以南ハも
乃も蝦夷地ら星移住ハ者ハ毎之千嶋ら
移住致ハ者と被なハ儀を申上候事ハ
疫候
一江中ハ候頃ハ候濟共鴻内南北ハ而人種判
然異り居ハ間右ハ儀を申談ハ事ハ候
一右サガーレン地方ハ人種ハ則千島ハ人

海舟書屋

種ハ者之候
一千嶋らりカラフトハ移ハ共カラフトらり千
島ハ移りハとも夫を彼是論しハこと毎之五
拾度以南ハ人民ハ従来我國ハ而保護ハ為し
来り候五拾度以南以北ハ地ハて人種異り居
ハ間其儀を申入ハ事ハ候
一一体彼島ハ者ハ従来飢寒ハ迫り困窮ハ
為し漁猟而已ハ而稍く活命致し居ハこ
付アニワと申者ハ先年陣屋取建拾育て
致積ハ変奢候も悪変悪病流行致しハこ

付一旦取拂申候其節も曾て日本役人ら
世話致しに儀を見請に事無之右陣屋取
立候士官をプールと申候
一右陣屋を先年プーチャーチン渡来ら節筒井
肥前守川路左衛門尉等同人に申談為引拂に多
小て一体蝦夷地を松前伊豆守ら封内に有之
候哉世話方十分難行屈儀も有之候に付當今
を改府ら所轄に致しに間其後左様ら儀を無
之答に候
一此島改府に而取扱有之候を四五年以

海舟書屋

来ら事に候哉
一右を最以前を改府ら所轄に有之候哉五六十
年前松前伊豆守頃知と相成八年前ら改府
小て取扱に事に相成申候
一右陣営一旦取立其後為引拂に土地不
宜士卒等も病に多く至并食料も十分に
無之且ッ其邊住民歩く不自由に候間一
旦為引拂に將若重而を食料ら用意も
以ての外尚陣営を補理に自國政府ら主意
に有之候プーチャーチン所出ら重臣と

談判ニ上引拂ハ訳ニ無之候

一左様被申聞ハ得ともプーチャーチンより引拂ニ證書差出ハ儀も有之候

一夫ゟ前申立候通り住居難相成ハ百姓談判以前引拂ニ儀プールより自國政府ハ申立引拂ハ儀ニ而折柄ニ談判ニ疎ハ間右ニ而引拂ハ拙被思召候事と存ハ

一右引拂方ニ議論ニ暫く差置以内まこと五拾度ニ而境界取極ハ儀談判ハ引度ハ

一プーチャーチン儀種ニ談判及ひ取扱

海舟書屋

候儀も有之ハ滑共右陣屋引拂ニ儀ニ同人ニ取扱ニ無之無拵差支方之引拂候事ニハ曾て彼地ニ居住ハ無ニ居候ロシヤノスケ當時當地ニ罷立ハ間同人實地ニ儀兼知ニ付召連出談判可申上候

一実地巨細ニ儀ニ追而彼地ニ而談判ハも可及拙者共談判ニ儀ニ五拾度を以境界取定ニ儀を聞と取極度ニ候

一凡物を取極ハニ甚実地事情等研究以ハ一候上ニ無之而ニ何事も治定難致ハ

一汽亦ゝ通魯國ゝ大國ゝ而獨逸里法ゝ而
ゝ拾五萬里程も有之ゝ間些少ゝ地を彼
是論しゝ事ゝゝ無之候將共其事を理ゝ
當然を以不論ゝ而ゝ不相成候
一亦ゝ此方ゝ而も日本地ゝ無之ゝも乃強而及談
候儀ゝゝ無之五拾度以南ゝ往古ゝ我國ゝ
地ゝ候間右を及談ゝ儀ゝ有之候
此時彼方地圖差出
一此邊一圓魯國日本支那等ゝ雜居無之誰し
不屬し可申哉を詳ゝ可申上候

海舟書屋

一私儀ハ支那ゝ別條條約を取結ゝ儀も取
扱狎彼邊ゝ地模樣も兼知ゝし居候將
共尚巨細兼知ゝものゝ召連罷出候談判
可申上ゝ申上ゝ事ゝ候此邊（滿州地海岸ゝ邊をさして申ゝ）
ゝ一体ゝ武百年或ゝ弐百五拾年前ゝ魯
領ゝ而陣屋等も有之ゝ處其後遠境ゝ而
取扱方不行屆陣営引拂支那領ゝ相成
居候愛時年私同國ゝ條約取結ゝ後取扱
右邊一体取復し申候右を世上ゝ而ゝ新
ゝ所轄を擴メ候樣申觸ゝ間申上置ゝア

イノと申候ハ何と申意味に候哉

一日本にハ而もエゾと唱へエゾ人ハ自らアイノ
と唱へ何と申儀に候哉拙者共ハ不存ハ

一私アイノと申儀可申上候右島ハ赤ら
偏鄙ハ地に而他國にも乃相尋ハ將ハ土
人アイノと答ヤハアイノと申候ハ人と
申事に而私も人ハ首之と申事に候

一右を論ハ事ハ無之右等とハ
参考首之ハ而も他ハ解相成ハ事と存ハ

一赤ら日本人種と申事ハ無之ハ將共最前

海舟書屋

ら申入候通從古我國ハ所轄に付五拾度を
以境界ハ俄申談ハ事に候

一御國政府ハ主意ハ五拾度以南他國に屬
しハ思召に有之自由政府主意と者ハ
居必清ハ也双方証を拳ハ談判致しハ
上に而正理に帰しハ方當然に有ハ然を
御國政府ハ他取極のミ以てハ正理と申
事に無り不申譬へハ裁衣致しハも
其初布帛ハ丈尺を取調ハ裁断ハ而ハ用
に不立と同様に而最初に其理を辨明不

致いゝ而も取極不申候

一左候ハヽ貴政府ゟ主意一應兼り可申候

一五拾度と申境界と被成度ゟ而已にて右

ゟ何故と申廉無之而ハ分り不申い

一五拾度と申ゟアイノ漁猟ゟ為メホロコタン

近ゟ相越い將若夫ゟ北部いゟ相越不申右

ホロコタンゟ則元五拾度ゟ書と有之候間右

五拾度を目的ニ分界と定度主意ニ有之候尤

五拾度と取極い上ゟ双方ニ而役人差出實地

見分ゟ上而極可申い相可致候

海舟書屋

此處五ニ地圖ニ而談判を

一カラフトと申儀を何故と相伺候委唱来

候迄ニ而ハ存寄之趣彌左相ニい哉相

伺申候

一其譯ゟ心得不申候

一カラフト島ゟ儀土人ニ尋い將を為名チ

ヨコと唱へ申候右チョコと申儀ハ土ゟ

ト事ニ而我地と申義理ニ相當ゟ土人チ

ヨコと申唱へカラフトと申事ハ存不申い

一最早今日を迫ゟ時刻も後レ候間尚明日

可罷出尤ムラビヨウ儀御國ニ罷越ル節
申立ル主意書留有之ル間此席ニ罷立候
者三人ニ申付置同人共ヨリ申上ル相可
仕候間法直ニ法少被成ルとも多吉郎延
ト少同人ヨリ出府ニ付候ヨシ西都合次
第ニ而直変右法覧シ上明日私ト法談相
成ル儀も法度ルハヽ右三人共ニ江ノ少重
被下度候

一致兼知候

一貨幣改鑄シ儀過日鳥渡法談有之右如何

海舟書屋

法改鑄シ儀ニハ我元シ儀相同度ル

一我國貨幣ヲ従来壱両ヒ申小判ニ而右小判ヲ
弐朱銀ニ而八ツ壱分銀ハて四ツニ有之一体
壱分八金貨ニ有之候変迫来少量シ壱分銀鑄
立極印ヲ以通用致ルヨリ金銀不釣合相成居
候ヲ各國貿易ハ始ルニ付而ヲ内外貨幣シ相
場吳リ尤最前下田港相開ル節ヲ壱ドルラル
ヲ以壱分銀壱箇ツヽ通用致シ来候変其後量目
替ト成ルヨリ壱ドルラルシ價三分ト相成隨
而物價一時ニ沸騰諸民難儀致シル右ハ平竟

貨幣相場ゝ相違こゝゟ候儀こ付以前ゝ振合
こ復し壹ドルラルハ二ツこ而釣合ハ同位同
量ゝ武朱銀こ改鑄致し度政府ゝ主意こ有之
候

一左ハハ壹分浪を止停廢相成ハ哉

一京ゟゝ幸こ候

一歐羅巴各國こ而を何と申上ハ哉

一英政府ハ尚勘考可致旨こ有之学國を兼知こ
有之蘭を再渡ゝ節暇を取極ハ積佛ハ未タ談
判不致候

海舟書屋

一右を司農こゝストル有之商人取引ゝ変
如何有之候哉萬と兼紀右ニストル相
談ゝ上申可申上候當府ハ出立蘭或を
蘭又を佛何レハ出越ハ成ハ哉兼而相伺
を候ハ國帝ゝ命有之候

一和蘭ハ再渡致し度ゝ佛蘭西蘭國ハ相越
ハ積こ候

一兼知仕候

右早而退席

戌七月廿六日

北地境界ニ付

魯國通辯官エッセン申立ル書付

一先般ムラビヨフ御國ニ渡航ニ上申立候趣其節ニ答之ニ付今般尚申上候ハヽ自國政府ニ趣意も徹底ニ為シ同一應可申上旨セヨラールヨリ申付候

一右ムラビヨフヨリ申立ル趣ニ荒増心得罷立ル將共尚委細兼テ可申候

一因テ此義知ニ成ニ可有之ル將共右

海舟書屋

ムラビヨフヨリ申立候ヶ條ニ趣左ニ可申上候

此時ヶ條書を以申立

一第一ヶ條両國ニ境界を島と鴎との間ニ有之候海を以テ相定右海ヨリ以北を魯西亞國ニ屬シ夫ヨリ以南を日本ニ屬シ以テ差極双方所轄取ニ相定至度事

一右を何と相唱ヘル島ニ有之候哉

一此書面中ニ島名を無之候將共ラヘルースと申海を界と以たし度趣意ニ有之

候

一第二ヶ條サガレン南ゝ部内アニワ港ニ
而是まて漁業等致し居住致立候日本人
を永代其地ニ居住魯西亞國甚く保護を
請い事

一第三ヶ條日本人民ニ而魯西亞領東ゝ部内
則ち東洋海を越しい地ふ日本人民新ゝ
建物等補理仕居以ゑしいを勝手ゝ事

一其地を以ては也ゝ邊ふ有之い哉

一シベリヤ領ふ有之候

海舟書屋

一第四ヶ條サガリン其外魯西亞領ふ移住
以ゑし候日本人民を自國ゝ宗門を奉し
習風通りゝ寺院等取建いを勝手ニ而尤
法度公魯西亞國ゝ法度ニ隨ひ候事

一先般ムラビヨフより申立候廉を右四ヶ
條ニ有之い

一過刻セヲラールより私ニ申少候ニを今
般を自國より別段境界差定度旨申上
い儀ニを多之候を前段方より内談有之
候ニ付則ち先般ムラビヨフより申立い

趣意を申上い儀こ有之ゟ右を兼而心得兼
知こも有之候ゑこ付文廷法参考相成い
ゟゝ委細相分り可申候

戌七月廿七日魯國旅寓於て竹内下野守松平石見守
等亜魯西亞外國事務セ子ラール、イグナチフに

對話書二

一應接抄呈而

一昨日被差置い書面ゟ趣委細兼り候ゑ島と鳴
との間を以界と江致度趣右ゟ蛾夷と唐太と

海舟書屋

ゟ間こ有之唐太ゟ昨日も申入い通往古ゟり
半鳴我國ゟ所轄こ而殊こ書面ゟ趣何故を以
て右を界と江致度との貴政府ゟ主意を書載
為之右ゟ如何ゟ主意こ候哉委細こ兼り度い
一世上ゟ奮来ゟ幸と記し候教ふ基きい將
ゟ隣國ゟ懇親を全ふ以ゑし候こゑ天然
ゟ界を以境を立候を至當ゟ幸と江存い
右ゟ地續ゟ場所こ而境と立いこゑ抗等
を用ひ候半而ゟ不相成抗等こ而ゟ往々
不分明ゟ儀も出来候間天然為を以界と

以ゑし候方可然譬へ各地續こい滑と終
小牛一頭界を越いゝ而も夫レか為メ干戈
を動しいゝ相成い事是すても間こ北先
し有之候間右故為を以界といさし候得
ゝ双方ゝ煩を之事こ候
界を定石申其儘小以ゑし至候得ハ爭亂
等相成い事も有之間敷併界を定い方當
然こゝ候得共右も界ゝ立方こゝりい而
ゝ爭亂ゝ基こ相成申候
魯國政府於て各日本政府ゝ對し聊隔心

海舟書屋

無之候間是迄ゝ通界を不定方却而懇親
ゝ不破基やと被為候
一土地ゝ而双方こ屬し候を不至事こ候併
不相當ゝ理を以界を定めいゝり双方ゝ
屬し至候方可然江為い
既小先蹤も有之事こ而自國を支那と
壤を接し居い場所數百里こ而互こ往來
必たしいい儀も數百年來ゝ事こい得共是
まて接壤ゝ儀こ付矣論生しい事無之右
各山川ゝ地形小ゝり界を立候間是まて

穢こ有之地續を以境を之爭亂こ基こ相
成候儀ハ有之候且ツ支那こ海外萬里こ
國こ度こ爭亂も有之ハ將共自國於て戰
爭いたしハ事無之古こ全天然こ地形こ
より界こ之候故こ俄こ有之境界こ事を
以懇親を破りハ俄こ無之候
一貴國こ支那こ接壤以ふし居ハ將共境を接こ
ふこ接せをはこふより戰爭起るこ申も有
之間敷戰爭こ懇親こ破こより生起ハ事こハ
已ふ和蘭こ漏生接壤こ國こハ將共其為メ戰

海舟書屋

爭起し候事兼りハ俄無之且ツ唐太こ俄こ半
島從來我國こ所轄こ地を減しハ俄こ難出來
境こ不取極候得こ雜居こハ雜居こ而こ往々
何れこ事變可差起も難計ハ間天度五拾度を
以取極メ度弥取極候上こ尚地形こ模れこ從
ひ実地引合可及候
一五拾度こ申俄こ昨日も法答相伺ハ通何
故五拾度以南法國こ屬しハこ申的證無
こ候間最早五拾度こ論こ相伺不申ハ一
体カラフトこ法國こ屬隷こ申俄事り不

申御國ニ而右地ハ役人等江差遣ハ変至
等有之ハ終四五年来ニ事ニ而右地ニ
従来土人も満州ヒ申唱則満州ニ属地ニ
有之既ニ甚儀ニ箱館ニ而相唱居ハもの
も有之趣ニ御座候
一唐太ニ中古まて ニ我政府ニ管轄ニ而我國民
も移住致シ居蝦夷人住居以ヘシ居候場所五
拾度ニ處小有之右ニ我國舊記ニも聚ト記載
有之事ニ而其後松前伊豆ニ領地ニ相渡候変
迚須萬事変至方行届不申儀も有之候ニ付迚

海舟書屋

来又候上地為致政府役人等差遣ハ儀ニ而素
ヨリ満州所属ニ地等ニ無之候
一右地全日本政府ニ所属ト申事ニ候得ニ
最初自國ヨリ陣営を取立ハ節直ニ御談
判無之而ニ不相成ハ変其節何ニ御沙
汰も無之ハ境界不定ニ地ニ相違無之
且陣営取立ハ節も御國ニ役人等人も来
ニ候事無之ハ
一松前家所領ニ節ニ寒地故夏ニ役人詰居冬ニ
引拂ハ趣ニ而右役人不立ニ節陣営ハ取立候

事故筒井肥前守川路左衛門尉フーチャーチ
ンヽ及談判引拂方申談右引拂證書我政府ニ
有之程ゝ事ニ候既ニ六十年程前貴國人ホー
シトウと欲申ものクシユンコタンヽ相越同
所乃會所等其外ヽ打砲いたし及乱妨會所ゝ
品々等奪去候事有之其節會所詰合ゝ役人取
扱不宜ヽニ付被罰ヽ程ゝ事も有之候
一夫々私方ニも大切ゝ儀ニ付舊記も有之ヽ
渉共左様ニ毎ゝ最初ウルツフ島より
相前ヽ及乱妨ヽ事ニ而右ゝ節士官等ゟ

海舟書屋

既ニ士卒ニ被罰ヽ程ゝ事ニ候
一左様ニ毎之最初エトロフと申處ニ而及乱妨
其翌年クシユンコタンヽ到ル乱妨以ゝ如ゝ社
等ヽ火を懸ケ候事も有之ヽ
一右其節ゝ儀ゝコモトール始士卒ホ至ル
まて不埒ニ付吟味いたしヽ写其記ゝ書
類も有之候
此時彼方繪圖差出いしやらり少し東
ゝ方と指示ゝ
只今申上候通其節丈ゝ際変吟味いたし

候間聽と舊記も首之地所と私申上ハ通
此所ニ法度候
一左様ニと安之クシエンコタンハ相違安之候
ニ拙者儀其場所ハ歩越甚愛ニ而兼り候間其
通りを申ゟハ儀ニ首之候兎ニ角右場所ハ甚
節役人ゟ詰合居ハ證を挙ハ事ニ候
一以清之ニ而も昨日差出ハ書面ゟ越ゟ
法談判ハ難仕候
一陣営被取立ハ節役人不居合越ハ申ゟハ右之
前ニも申入候通夏分ハ人數差出し冬ニ相成

海舟書屋

候得之人數為引取候其為引取ハ深ハ来り取
立候ニ付役人之不詰合ハ儀ニ首之支故前申
入ハ二貫ゟ重臣ゟフーチャーチンハ及引
合候儀ニ而未ゟ右地之我國ゟ屬隷ニ候間
同人ハ支々及談判兼引被致人數引拂ゟ儀取
扱引受書面等差出ハ儀ニ付我屬鳴ゟ儀之顕
然ニ首之候扱右地當時之雜居ゟ譯ニ候間往
ゟ如何拙ゟ混雜出来可申も難計ニ付我政府
ゟ主意ニ而之以清之ニも境界取極度事ニハ
一陣営引拂ゟ節も右地所法國ゟ所轄ニ

候將を フーチャーチン赤より佛國政府
より被命候役人と談しを受いまて毫無
之一應佛國明而已こ為引拂可申且證書差
出候儀ハ昨日も申上い通其節自國政府
と都合こ寄引拂い事故跡こ建物を佛取
拂相成候而も不苦旨こ書付迚こ而右
書付を以佛國屬隷こ地と申證こを相成
不申候且フーチャーチンより差出い書
面寫こ而も佛所持こ候ハ一覽仕度い
一書面こ寫を持參不致い右證書と申談受取候

海舟書屋

も被引拂い跡こ建物我國こ地内こ有之いもの
こ而も無沙汰こ取拂い而を懇親こ筋こ無之
候間甚為メ證書為差出い儀こ有之い
只今申入候雜居こ儀是迄こ通こ而を日本人
貴國人互こ往來以ゐし往々如何拵こ不都合
可生も難計こ付い佛地こも境界取極申度我
政府こ主意こ有之候
一只今まて我より右こ佛答不申上いを最
前も申上候通境を取極い方當然故こ候
併只今佛談こ通こ而を迚も佛談判難致

以間是まてゝ通雑居ゝ方却而可然と存
候
今日を最早時刻も相後し且法談判今日
小限りい事小も無之候間明日八差支有
之明後日両日ゝ内私ゝ申上い儀と萬
と出参考ゝ下度自國政府ゝ主意通知減
候場を別段法談判仕いこも及ひ不申い
一我政府ゝ主意を雑居ゝ而を往々混雑と可生
とゝ懸念ゝ有之貴政府於而を取極方ゝ寄候
而を却而懇親ゝ破毫ゝ相成候間矢張是迄ゝ

海舟書屋

姿ゝ致置候方可然と乃主意ゝ而双方意味合
も行違居い儀ゝ付甚許ゝも尚勘考ゝ致候様
存候
一支故最前ゝり私も申上い通境と取極候
小時りい事ゝ無之い写天然ゝ地形と以
取極申度左い得ゝ久敷争論も出来不申
故最前ゝ通申上い儀を蘭学接壌ゝ儀
を法論有之い得共右ゝ比例ゝを無相成
蘭学ハ互ゝ政府も同道ゝい同如何様ゝ混
雑出来候而も直ゝ戯合弘屈可申唐太ゝ

俄と往復とも許多之日数相掛り可申候人
数之差置可申候得共事之容易而之役
人之心得違と申俄も有之其内之如何様
之争乱を引起し可申も難計哉右役人之
人撰も可仕候得共天然之地形に考取極
長之五ヶ条争乱之掛念無之ことを勝り不申
候間右之通申上り俄に有之候
一天然之海を以取極らるべきの趣に候得共無
謂我國之虞鴻を減しに譯にて難相成右様之
俄有之候節之國内之人心如何様之変を生し

海舟書屋

可申哉難計則人心ハ差響申候且右地にも當
時ハ大名四家丈々固メも被申付有之候間土
人而已雑居とも違ひ此上往々混雑如何可有
之哉甚心配に付甚許にも猶萬と勘考仕致候
様以ゑし度候
一是迄他國に対し懇親を顕し度自國政府
志願之俄ハ定先し他兼知にも可有之既
ハ延期之俄ハ御國他都合と計ニ他答申
上候程之俄を今般他談之俄も可成丈ケ
御國古都合相成り様ことを存居り得共境

を定メ候事ニ候ヘハ右大事件ニ候ヘハ右大事
件を何ニ的證も無之一品ニ付國政府ニ
付都合次第ニ申譯ニも相成不申且迚未
だ兎も角も十四五年以前ハ彼人等居住
以たし候事も絶而無之ニ付五拾度抔と
申談ニ而ハとても談判濟ニ不申ハ
決て前按方ニも重大ニ事件を仕命私儀
も重大ニ事件被任且ニ任を少ニ而も
軽く以為し度ハ間尚決て前按方ニも決
勘考可仕下候

海舟書屋

一前ふも申通り以前彼人詰合無之と申儀を決
而無之候
一フーチャーチン甚外自國ニ者度ニ彼地
ニ相越ハ將去漂獵ニもの等ハ格別彼人
等更ニ見受不申候
一松前家所領ニ節を彼人年ニ三月ニ回所ハ相
越八月迄詰合申候
一以ては れニ而も萬と申勘考仕不度只今迚
ニ談ニ而ニ連も約居不申候
一此方ニ而も萬と勘考可致ハ間其許ニも尚勘

弁有之度い且外事件一廉ヲ談度儀有之候得
共此後ゝ會晤ふ譲り可申候
右辛而退席

戊八月二日魯國旅館於て竹内下野ヲ松平石見ヲ等
魯西亜細亜外國事務セヲラール、イクナチフト

對話書三

一應挨拶辛而
一此間中下野ヲ通ゝ引合及ひ置且甚許よ
ヲ被申少候趣等猶ふ勘弁ふ為し甚節ヲ許も

海舟書屋

尚又勘考ふ致い和中談置候間定而萬と勘考
も可有之候事とな い然而をカラフト五拾度
以内ゝ我國ふ屬し候地ゝ相違無之と申儀を
了解ふ致い哉
一右ふ談判有之候ふ趣意丈ケゝ儀を了解
以為し候得共自国政府ゝ趣意とハ相反
し居いゝ付甚節も追ゝ弁明いたしい儀
ゝ有之候
一此方於而ゝ無謂儀を申談候儀ゝも無之右五
拾度以内我國ふ屬しいと申儀を奮記甚外ふ

も聚と有之往古より治定仕居申候儀と変
貴國に而も左相不被相心得候趣に而も拙者
共甚迷惑仕候儀に付右譯柄等尚委細申
談い間鳥と江開取い相仕居申候
一此間中うりす沽引合等に而舊記等に而
沽談有之候趣意と最早相分い間別段沽
談こと及不申左今般沽渡来有之候に付
而も沽談判筋等自國政府於ると御國政
府より沽趣意も可成丈届ッ沽ま前段
方こも右沽大任等軽く相成候相仕居申
度との趣意に有之然るをカラフトと儀
往古と支那と属鴻に而御國人民と漁業
拓く為ノ折く往来仕居申候迫に而敢而
御國に属しい地とも沽心附無之別段沽
ま入も無く候處近来に至り右と大切く
地と沽心附有之追々沽ま入被成候儀と
自國於而ハ相心得居立候右に付フーチ
ヤーチン并ムラビヨフ等越沽談判以
ま し候節うり接壌く地に而境界相立い
而と限雅く儀も出来可申に付永久く為

海舟書屋

メ天然ニ地勢ニテ境界差定度との趣
意申立候儀ニ有之候
一我國ニ於意并拙者共被命ハ任とも可成丈相
立候様被致度ヒ乃儀ニ事意ニ候ハ去カラ
フトニ儀往古ニ支那ニ屬嶋ニ而我國ハ屬し
候地ニ無之ニ儀ニ何分ニ解難致且接壤
ニ境ニ而ニ混雜も可有之ニ付天然ニ地勢ニ
ヨリ海と以境界ハ立候得ニ都合可然旨被申
聞ハ得共我國於而ニ海を以境界相立候ヒ中
儀ハ甚迷惑ニ存ハ且右接壤ニ而混雜可相起

海舟書屋

とニ儀ヨリも尚一層不都合ニ儀ニ有之候右
ニ猶委細申談度ハ百萬と被少取ハ私ハ為し
度候
一右ニ過日中兩度ニ談判ニ而最早相伺
候儀ニ有之ハ間別段咄談ニ不及左右
ニ外別ニ聽とニ諸接ニも可相成新説有
之候ハヽ相伺可申ハ得共前書過日中ヽ
ニ趣意ニ而ニ廣ク品を附咄談ニ儀ニハ
得ニ再應相伺ニ及不申候
一左拙ハも可有之候得共往古ニ支那ニ屬嶋と

申儀を何分了解難致且我國に而大切な地と
心付候を迫来る事と被申ゟは將共大切な地
を用ゐ地拓く儀を勿議ふて一体我國所屬に
も無之を安に人民撫育等以ゐしは謂ゆハ無
く然ゟを往古ゟ撫育いたし役人等差遣し
我國所屬たる事を顯然る儀に有之尤人民撫
育以ゐし我國屬嶋と相成は上を何ゆゑ迫
る人民撫育致し何ゆゑ場所迫を屬嶋と以ゐ
し候と申要と取調も不致空く屬島といひ人
民撫育致し候謂ゆゑ無之甚節役人差遣既と

海舟書屋

取調其後猶又役人差遣し再應取調候要ホロ
コタンと申處に住居いたしは者ゆてを撫育
致し是を界と取極人民撫育以ゐし是迫を屬
島と界を定夫ゟ撫育致し来は儀舊記に顯
然有之則其地を天度五拾度に相當は迫故五
拾度を以境界と差定度旨申談は儀に有之且
前書役人等差遣は時分ゟ旧記等にも支那
に屬しはとの儀ハ決而無之支故其後カラフ
ト島と我國に而北蝦夷地と相唱大名松前
伊豆守領分ふ相渡し候儀に而是又我國ゟ地

こと無之いを大名等ハ政府より相渡ハ苦ハ無之
夫是我ゟ所屬こ相違無之段を顕然ハ
居候無ゟを支那屬島とし俄を何分拙者共こ
ゟ更こ難聞取俄こ有之候
一往古より我國所屬し地こ相違無之を勿論し
俄ふて年久敷拾育等致し来る前書松前家ハ
相渡ハ時分を役人等差遣至我ゟ會所等取立
右ハ為詰切候者も有之候位こ而固より我國
所屬し地こ申俄を彼是談判を盡しいふも及
いを無論し俄こ相心得申ハ且外國し普通し繪

海舟書屋

圖面抔こもカラフト半鴻を我國ハ相屬しい
色分こも相成居世上一般我ゟ書記と同抔こ
相心得居立ハ抔被為ない方右を以證拠といし
しハ譯こを無之候得共此方旧記し通自然符
合ハ為し居候を則我國所屬こ相違無之段を
一證こも可有之候
一繪圖面色分を以證拠と被成ハ俄こを無
し趣右を至極尤し段口上と為ハ就動
抔こ而刊行ハ為し候繪圖面こを滿ゟし
地を以自國し領分こ色分ケ相成ハ品も

有之候間右繪図を以支那ハ談判いたし
候ハヽ同ハ於而ハ定て驚きい儀に可有之
い間右繪圖面色分ミ儀を決而當こを不
相成候
一右様こを可有之候將共我國於而ハ從来ホロ
コタンを以て境界と相心得居候変世上普通
ミ繪圖面こも同様相成自然符合いたし候を
如何こも不思議ミ儀こを存之候哉
一右繪圖面ミ儀を刊行いたしい者ミ存意
次第如何様こも色分致出来い儀に付決

海舟書屋

而當こを相成不申候若右を脱とミ辞柄
こも相成い儀に而私ハ刊行いたし候
ものハ相頼江戸半分魯西亜ミ色分こい
たしいヽカラフト半島迄の將矣ふて
存之候
一右を相頼ハヽ如何様こも可相成ハ將共我國
於而素ヨリ外國ハ色分相頼ミし候者も存之
然ル変自然ミ符合ふて右様相成居ハを如何
こも不思議ミ儀に有之候且繪図面を決而當
ふ不相成と申儀こを有之間敷航海甚外右を

目的こゝ以ゝ書品こ可有之儀と存候

一先年フーチャーチンヿ下田港こ於而船覆没ゝ
ゝし候節船ゝ所持有之候繪図面潮技方等我
國こ者ゝ被相頼ゝ委右繪図面ゝも矢張カラ
フト半島こ而我國こ色分こ相成居候由取繕
ひ候者聚と見請ゝ候も有之且過日當所草木
園ゝ罷越ゝ處同所こ地球こ圖面有之右ゝて
五拾度内外聚とこ候ハ不相分ゝ將共是亦カ
ラフト半島こ而色分相紫居ヿ候左ゝ將こ假
令繪圖面こ當こ難右成ものこ有之ゝ共前書

海舟書屋

貴國人所持有之候品并當所こ地球圖面ゝ後
て茂輝と色分等有之ゝ將こ則我國舊記通り
相違無之一證こも可有之候

一航海其外繪図面要用こ候こ地形等研究
ゝ候ゝし候譯こ而固より色分こ拘りゝ候
こも無之前書申上ゝ通支那と自國と乃
境界も異同有之候位こ而右こ誤を以判
行いたし候より返こ誤来ゝ譯こ有之
且所國と自國と色フーチャーチンムラ
ビョフより即今こ至境界こ候論しゝ

譯ふて是まて曽而差支い儀と毎之右を
色分等致しいと則誤りこ有之限判然
く儀と存候
一クシユンコタンに陣営取建い節色分等相改い
と容易く儀こ有之候併共国ゟ右等こ
相拘りい儀ハ毎之い間甚迷惑至い儀ふ
有之候尤其節同所に仮建候陣営引拂い
と全く懇親く為メこ而敢て境界こ拘り
候儀こと毎之候
一境界く議論とフーナヤーチンゟ以来く儀

海舟書屋

こ而是迄曽て毎之然ルを色分こ致し候と誤
く由右とて解難致此議論以前ふさへ世上ゟ
も舊記回板く色分こ以ゑし有之候哉自然く
儀こ而誤りとも不存候且ツ繪圖面色分こ拘
ず候儀こと毎之趣こい併共最前も申談い通り
此方於而とハ口コタンこ而境界相立候限と
往古ゟ舊記書こも有之已こ人民按育も此
ゑし来い譯と而聚と治定いたし居い儀こ有
く其上前書右國普通く繪ふ面こ而右拙色分
相成居候上と如何こも自然く符合こ而我國

限り治定致しいのミ小安之各國ニ而も同様
相心得居候儀ニ可有之と存候然ルを支那ハ
屬島抔と被申少い而ハ拙者共ニ更ニ了解
難致い

一色々ニ儀ハ兎も角も往古より拾育ハ成
いとの儀ハ候得共撫育と申い得ハ人民
等飢寒ニ凌方等出来い様ニ仕法ハ當可有之
若シ変者を飢寒凌方ニも差支候ハ漁業
抔渡世ハ為し居い儀ニ而者奥ハ素より
政府ハ是ハ渡相成いものニも無之い間

海舟書屋

左い得ハ拾育と申趣意を相見不申候
一前ニ申聞い通取調ニ上拾育致し来りい儀を
顕然ニ有之候其後松前伊豆守ハ切ニ而を萬
事不行届ニ越も有之候ニ付則奮ニ復し政府
ハ上地為致拾育を勿論萬事共追ニ仕法相立
候儀ニ有之者ニ次第故松前伊豆守所領中品
ニ寄拾育方不行届ニ節も有之い哉丈を同人所
領中ニ儀故不存い得共同人方ニ而も是迄拾
育致し来り候ニを相違無之候前書ニ通ニ次
第ハ是方於てを奮記号ニ基きフーチャー

チン、ムラビヨフ渡来談判し節に而も五拾度
以内に而境界との儀を不望只爰五拾度を以
境界に差定度旨主張いたし候儀に付之い
一フーチヤーチン渡来談判し節も此方於而も
舊記等に基き五拾度以内に而も決而境界難
差定旨申談結局に至りカラフトと儀を畏を
分し次是迄通可致旨引合及ひ置候儀に付
右に而もカラフト島内に而境界相立可申と
云論し儀に付之且陣営取建い儀も我國所屬
し地に右拉し儀有之候而も不相成旨申諭候

海舟書屋

虜其後早速取拂書面等差出い儀に付夫是右
全島貴國所屬と申儀にも安之後明了に相分
申候儀に付之候

一最前申上候通り過日中より此談旨之候
同趣意に而も廣く此談し儀には海を別
候相同いに不及右を宣敷刻と費しい儀
に付私分申上候趣一應此方取可申上候

一右談判し儀に付一廉に而も相滿い拉ふく
も双方し趣意も徹底難致候間五二十分を盡
しい拉以るし度附而ハ今少し拉者共申談候

康等被聞取ハ拙ハ無之候

一接壤ニ而界を分ケ候ヶ之迄ハ通境界不差
定其儘差置ハ方可然旨過日も申上ハ將共
右ハ界を分ケ次彼我人民等雜居ハ不相成ハ而
も猶一層不都合ハ出来可申ハ已ハ過
日譬へを以被申上候ニ境を相定ハ上ハ彼我
人民銅置ハ牛抔境を越ヘ出候節ハ又ハ先
混雜を引起ハ小事ハ大事ハ及ひ候事も同
ク有之趣ニハ將共右ハ境界も不相定一ヶ所
ハ相混ハ差起ハ將ハ猶更其混雜ハ日毎ハ相

海舟書屋

生ハ夫か為メ意外ハ不都合等引起ハ候ハ必
然ハ儀ニハ間右等ハ変等深ク心配相考候將
ハ境界ハ駁ハ差定置夫ハ仕方等相立候抔ハ
無ハ度且ハ右仕方相立候ニも難居ニ而ハ手
を入ル候譯ニも難至法方ハ更ニ不相立何を
以て制ハ方致候哉不都合不少ハ儀ニ有之候
一即今ニ而も仙臺并佐竹右京大夫其外大名ハ
内四人程彼地警衛向被命ハニ付右家来ハ者
等多人數居越可申候間右ニ付而も貴公人民
雜居居立ハ而ハ彼地土人同志ニ而追ハ混雜

し俄可生哉し掛念而已ニ安之右家来多人數
し内不心得しもの等有之如何拙し共連れ帰
候も難計左い而も両國し怨親ニも差障可申
と甚遺し変迫も深く心配相考候ニ付此度
拙者共渡来以為し候を幸ひ右境界等聚と差
定い拙談判を盡し可申旨政府より仰命候俄
ニ有之い間右境界差定候後を怨親も永續いし
しい一端ニ而双方ニも都合可然俄と存候
一政府し逆意を先ッ前文し通ニ而彼地仕法向
等も追し相立い若ニ有之い得共右境界不差

海舟書屋

定いを最第中後い通右変更し方法不施行いもし
い変も独出来波是不敬合不かい可いつもこもホロ
コタンを以て境界といもし拙談し度い左い拙を
政府を勿論拙者左迄も満足し不ニ存ない
一即今我國人心不折合し俄を恵而兼知も被致
い通し事情ニ有之候間右心得違しもの拙を
彼我人民等雑居立い而を追し我國ニ委食
ニ致い拙存取い者も出来可申左候得を又い
如何拙し異変相醸しいも難計且ッ横濱其外
開港場等ニを度し不慮し俄出来候折柄ニも

有之候間彼地こ而ハ前書大名等ゝ家来ゟ来
往去就以ゟ し居候ゟ右ハ貴國人民雑居有之
候而ハ自然意外ゝ差縺相生可申ハ勿論支ゝ
為メ懇親ゝ破ぶ ども可相成儀ゟ ゝとも難申
其隠ゝ處ハ政府於ても不一方心配以ゟ し候
儀こ而右ハ一串ゝ趣意こ而度ゝ及復申談ハ
も如何ハ併共右ハ則談判と盡し候譯こ而此
方趣意模通りハ拙いたし度儀こハ間其隠ゝ
ゟ ハ萬と諒察被致此上猶勘考有之ハ拙いた
し度候

海舟書屋

一 前件ゝ外最早法談ゝ儀ハ無之ハ哉
一 前件ゟ委細申談ハ儀ハ尚ゝ勘考と盡し何レも
我國所望ゝ如くホロコタンと以ゝ境界と差
定ハ拙以ゟ し度候
一 只今法談ゝ趣都合九ヶ條こ有之候間右
廉ゝハ手續こ依扶抄可致候
一 繪図面色ゟヶゝ儀ハ全く航海以ゟ しハ
もゝ彼島ハ蝦越ハ節其人民ハ法ハの
人こハ哉と相尋候ゟ御國ゝ蝦越居ハ
ものこ而日本人と相答ハこ付其地も矢

張日本地と相心得色々以為し候儀こ
可有之候間右を平竟人と土地との差別
無之故こ有之候左彼地景象一般自國く
色々ふ相成い繪図面も有之い間右色
々を決而證拠こを相成不申候
一往古より五拾度内てハ御國所屬こ而指
有等江成いとく旨両度差渡い使節こも
法談判有之い越ふ候將共右を左指ふを
有之間敷クシュンナイ四拾八度以北こ而
蝦夷人を見受いものハ絶而無之越こ候

海舟書屋

且フーチヤーチンく節ハ度數を以ゆ
談を無之ムラビヨフく節こ至り始而度
數く法談判有之い儀こ而右等法談く越
を聚と書面も有之候
一只今近く法談判模指ふく を且こ一已く
越意と主張致し黒白を論しい越ふく
相濃至い見据も無之い間黒白いはまこ
而も相濃りい指く法談判中上度候
一フーチヤーチンく法談判有之い節ハ同
人儀境を極メい權無之いこ付カラフト

を界を分ち次是迄てら通と御國政府より
是迄談有之候通條約面にも相加へ申候
儀と有之ハ

一陣営引拂ハ俄を過日もヤ上置いこ分別
候法接拶不致候

一境界差定ハ方御國人心不折合ら扨柄混
雜ら俄も不相生且仕法相立候ても御
都合可然とら法沙汰こを有之ハ御共警
へを此室内こ而も両人或ハ三人等同居
以ら〳〵ハ御を都合も直敷ハ御共を人こく

海舟書屋

と區別相立候御を右區別中ハ一歩こ而も
踏込候ら〳〵夫か為メ議論相生しハ俄も有
之ハ間矢張雜居ら方混雜を無之と存ハ

一追て大名ら家来等法差遣相成ハ者御國
警衛向等ら為こを無之別こ法越意も可
有之如何と存ハ彼地より迫き所こ有ハ
まら〳〵法を居らさ所所も有之候変夫を
法捨置彼地こ限り右振法處置有之候を
必ス別こ法越意有之ハ俄と存ハ

一右を政府於て別小振意有之候俄こを無之迫年

扨て大名松前伊豆守ハ相渡置候事右ニ而ハ固
所警衛向等不行届ニ付再ひ政府ハ上地為致
候儀ニ有之右松警衛向等不行届ハ甚儘美
至貴國と壌と接し外國ニ人民等至越ハ松
ニ而ハ是亦不都合を極メ候儀ニ付夫是大名
ハ被命警衛ハ仕たし候儀ニ而右ハ外別ニ趣意
有之ハ儀ニを決而無之候

一私ニ最前内談有之ハ節一時俗りも黙而
相同居ハ同猶内答申上候趣ニ先ハ内少
取可被下ハ

海舟書屋

一自國於てハ彼地ニ而石炭坑見出し候右
余程早く其以来國用ニ為メ常ふ石炭堀
取候儀ニ変所國ニ而ハ是迄何ニ用ひニ
被成ハ儀も無之且所屬と計ハ仰少ハ儀ニ
有之候

一右ニ虜南地ニ間ニ海有之候將ニ聽とニ
境界ニ而評論も無之早く相分り可申ハ

一所國人心不居合ニ折柄心將違ニもの等
自然ニ変食以ニ致し候様ニ有之変等出
来可申と内懸念ニ趣ニ有之ハ間夫故海

を以て境界と心得し候得て渡航いたし
候ものと安之都合可然と存候

一横濱其外開港場に而人心不居合に付柄
云々とて俄に自國人も先頃切害
被致し候に而右を使節附屬の士官に而
容易ならざる儀に候得共全く何故彼
に事に而古松に俄有之譯と相心得自國
政府於ても御國に對し厚く懇親に場合
を相顧み其儘打過し候に付古政府に越
意を下民にも徹底いたし國内一同不快

ふ為いものも安之候

一カラフト於て各人民等御國に左程懷
き居不申自國より差遣し兵士等に夫
く相當に尊ひ居譯に而古兵士と人民と
に間に色々決而紛違に俄に出来不申候

一自國於而御國に對し懇親に有之に候て
前書切害に俄に付取扱に次第に而も相
分り可申外國に而八使節附屬に士官に
右様に俄有之候而に中々其儘に差置
不申候

一沿岸ハい趣を先ッ前條ら廉こハ有之い

一右廉こ今一應ハ少候間可被兼候

一右こ付及覆談判以ゑし居い而を互ハ

枝葉こ相渡り支ら支と論を分いもの

ふて際限も無之候間聚と取渡り候ハら

法談判こ推移り中度既而を境界ら彼彌

治定いたしい將を條約面らとく古治定

ら趣書面こ認至調判ら上後来ら規則こ

致しいとも差支無之ハら法委任を有之

候哉

海舟書屋

一右を素より委任を有之候儀こ付治定以ゑし

候將を調判ら上書面為取替い心將こ有之候

一右沿委任を五拾度ハて取極至きとのを

乃沿全權こ候哉又を双方都合こり右

五拾度ら内外ら取極いとも不苦い儀こ

有之い哉若し五拾度而已ら沿全權こ而

度數歩こ合沿引合有之沿取極可相成沿

委任無之候而を何分沿談判を難出来と

存候

一五拾度以内こ而取極い權を無之候

一左候而も迚も右ハ談判ヲ出来不申候彼
地クシユンナイヲ申所ヲ自國ヲ最早
陣営も取建有之且ツ同所ヲ先ヲ御
國人民ふく羅越ハ者ハ決而無之候
一右クシユンナイヲ先ヲ我國人ヲ不羅越ト
ク越ニ候將共土人ヲ勿論只今已ふ土井能登
ヲ家来ふてウシヨロと申處ヲまて羅越干今住
居ふ為し候儀ニ有之甚外前ふ申候通リ舊記
等ヨリ五拾度まてく猶暇と有之候儀ニ付右
以前ニ而ヲ何分難取極い

海舟書屋

此時先方ヲリ繪図面差出右ニ而談判
ふ為し候
一クシユンナイヲリ北ヲ御國人往来ふた
し候儀ヲ可有之候將共住居いたしいも
乃ヲ無之い
一前ヲ少ハ通ル今住居ふ為しい儀ニ有之候
一ハ方ヲ前段方ニも実地ハ経験ヲ議論ふ
も無之私も是ふ実見いたし候譯ニも無
之候間人民有無ヲ談判も交張黒白ヲ
論しいまてニ而いハ迚ハ議論致しい而も

除限を無之候

一此方於て毫も只今被申出候趣に付猶委細及引合度に

一私を以談合之候廉々に付相扶抄申上候儀に付同右に又候相答有之に付て又私らも論と付相答申上只黒白を論し候而毫も以間まても除限を無之儀に而千年相戦いとも相盡き不申に

一水を就度搗きいとも決而ボートルふを右成不申に譯に而只今迄引合向を

海舟書屋

則水をボートルふ可被成との相談に有之候間迄も其詮を無之に

一左候得をボートルふ相成に相右引合を詮有之に談合を書義知いたし度候

一只今迄を変に而を双方と申実験を談判ふも無之互ふ黒白を論しに迄を儀に付迄も以相まて相戦りに共取懸り候儀を難出来然而をいけまこも自國らり彼地最寄等支配以為し候全權をも乃是也し御國於ても同様全權をもの彼地に相差

遣し相成双方ニ而實地ニ摸拓經驗ニ上
自國全權ニものうり箱館ニ至越ハ致又
ニ御ハ全權ニものニコライスキ府名ハ治
出張相成ハ致右両拓ニ内ニ而萬と治談
判を盡し不申ハ而と迚も治定ニ付引合
ふ事難ク成ハ
一右ハ濟と實驗ニ上治定ハ為しハ成り候得と
五拾度内外とも実地ニ摸拓こうり候後ハ我
一右ヶ上候も平竟自國政府於て懇親の場
合ニ有之則最前ヶ上ハ通り治ヶ箱拓治

海舟書屋

重任と相ハ成ハ
右ニ自國ニ而敢而望ハ成ふ事無之全く
御國政府ニ治談判ニ任せ取扱ハ成ニ有
之候
一右取扱候と申段厚意ハ存候
一治ヶ前拓ニも折角渡来有之ハ成ニ変
自國於て別段厚意ニ治取扱方も無之ニ
付前ヶ上ハ成ハ則右厚意ニ一端ニ有之候
一實見ニ治談判有之ハとも五拾度ふて事
迚も治定致と申事四拾八度ニ

所ゟて最早自國ゟり陣営等取建首之い
儀ニ付支ゟり北ニ而境界差定ゝ儀ハ難
取計と存候ゟ右ゝ聚と申上い儀ニ付
之全私見込ゝ書出哈〳〵申上候ゝて二首
之候

一右ニ付而ゝ此方ゟり茂相談致〳〵度い

此時澹海西を以下野ゟり委細申
談い

一貴國人ニ而石炭堀取いゝ以法ゝ場所ニい哉
一ツーウイゟりクシユンナイ遣ニ首之い

海舟書屋

一只今土井能登守家来在越居いゝウシヨロと
申則此遣ニ而（陰ふる差ぶゝ）アイノゝ其外所ゝゟり罷
立候

一右ニ付而も只今四拾八度ゟり先ゝも我國人
民等在越居候儀ニ首之い間實地經見ゝ上事
実人民等在越居候段相違も無之ゝ且實地ニ而
境界差定可申ゝ當然ゝ儀と存い然ゝを四拾
八度ゟり先ゝゝ決而沿定難致と貴國限り取
極い儀ハ首之間敷候

一支那双方全權ゝも乃実地ゝ形勢ニゟり

取極に儀こ有之に付只今こ而も何共難
申上旨私見込こ而も迚も五拾度こ而も
纏まり申間敷と存候旨去是も私ふ臣此し
ア上に儀こ有之に付御政府に申立
ら有無も思召次第こは將共聚と取極申
上候儀こも無之
一双方委任らもの同志ら談判こ而取極候上も
実地ら形勢こより譬へも四拾度五拾度或々六
拾度こ而差定候とも固より差支ら儀無之苦
と存候

海舟書屋

一支も実地らと上ら談判こ而委任らもの
心將次第こ有之候
一右委任らもの差遣し實地ら談判ふ為しに付
而も拙者とも歸府ら上政府に申立然ル上其
筋こ而支ら評議等盡し人撰ら上に命に儀と
存候就而も貴國こ而委任らもの差遣しに儀
も此方より箱館立留コンシュルに頃合等沙
汰ふ為しに上彼地に差遣し候様いらし度左
も安之約速に而も不都合こ付箱館コンシュ
ルに沙汰次第百計ふい様ふ為し度右も萬と

心得被居ル拙存候

一兼知ル心たし候何ども尚ほ相談ス上聽
と取極ル拙ル為ス亟くル

一右拙ス談判こいたし候も自國於而ス
格別厚意ス取扱ル心得ス有之候ス右ス
左程ども不被思召ル拙存候

一厚意ス感ス固ラリ和存候

一外國ス山て彼是ル談判向六ヶ敷有之候
儀も自國於而ス格別ス懇親ス表シ万計
候心得ス有之ル

海舟書屋

一諸事懇親ス取扱ス有之ル段ス一同悦ス敷存
居候

一過日カラフト島アイノ人種ス俄ハ蝦夷地ス
移住ス物ス申談ル拙被聞居候哉ス此度左
拙ス左之右人種ス蝦夷同拙ル山てスメレン
クルス冬全ク相違ル為シ居ル段申談候儀ス
有之右ス意味萬ス相分リル哉

一蝦夷カラフト、クリル等何ども同種ス人
物ス有之候

一貨幣ル談判ス儀ス付相伺ト度ル玉小判

を三通ふてメキシコドルラル五枚或ハ
四枚三枚位等ニ相場ニ而三等有之い趣
右之右相ニ候哉

一新古ニ貨幣ニ而ハ右相ニ俄有之い將昔貨幣
改鑄ニ俄申談ハニ付而ハ素ニ小判も同相
改潔以ハしい俄ニ付古来ニ振合ニ不拘新規
ニ貳朱ニ釣合せ改鑄いたしい積ニ有之候

一是迄ハ小判壹両ニ而弐朱銀八箇と申趣
ニ有之候ハ変右弐朱銀ハ改鑄相成い將ハ
如何ニ釣合ニ相成い哉

一新規ニ弐朱銀八箇ニ釣合せ小判も改鑄いたし
しい筈ニ有之い

一當時ニ小判をトルラルニ与ハ如何様ニ
釣合ニ有之い哉

一當時ハ條約面通り金ハ金銀ハ銀といつもも
同種同量を以取引いたしい筈ニ変是迄外國
より金貨持渡りい色の更ニ無之支為金貨を
以釣合せ取引いたしい筈ニ無之い

一各國何も色ニ貨幣ニ釣合せいたしい九何
様ニ而相通ニ変相分りつヤム

海舟書屋

一此度改稿ニ付小判ヲメキレコトルラル四箇
ニ相商リハ松いゝしハ様ニ存ゼハ
一右小判商時ヲ去ル武
一商時ヲ去ル遅ク改稿いたしハ上ニ取ニ存ゼ
ハ
一右ハ該判治定いたしハ様ヲ其通リハ
改稿相成ハ義ニ存ゼハ武
一急速ト申候ニ付相成ハ様ヲ該判治定いた
しハ上ハ何ト改稿いたしハ様ニ存ゼハ
一小判ニ取ハ委細相分リ申ハ日右ニ付

海舟書屋

司農ニニストルハ寫ヲ下該ハ上他日
ハ接拶ヲ致ハ
一今日ヲ余被別限モ相後也ハニ付別ニ
ハ該ニ廉存ゼハ他日相伺ハ様ヲ致ハ
ハ
一速ハ該判存ゼハ様ヲいつも受書ニ
而為取替ハ様ヲ致ハ
一いまゝ該判設廉ニ存ゼハ且家漏出回ニ而
も該判ニ廉ニ等受書ヲハ受戴ハ日右ニ振合
ニ而該判向更ニ治定いたしハ上ヲ為取替ハ

拙いゐしゑん

一先ん拙き貨幣ニ関農ニストルに
中淡出撰扱治定いゐしん上差出ツ中
ニ付其義外に淡判向をも相伺ツ中ん

一貨幣ニ関ニ付而をいつに決定致ん

一只今より同農ニストルに中淡ん
九四日も相立不中ん而さに撰扱延出
来ん

一都而淡判相纏りん上をカラフトニ関を初書
面ニいゐし定致ん拙いゐしゑん

海舟書屋

一此中国ニ通知而淡判纏りん上を外国
事務ニニストルゴルチヤコフニも通
知いゐし拙も列席立合を上差上ん拙
つ淡ん

右年月退席

開國起原卷二十七

海舟書屋